

学科名： スポーツ柔整科・柔道整復科

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

スポーツ柔整科・柔道整復科では、「医療人」として国民の健康保持に寄与し社会に貢献できる次のような人たちを求めます。

- 1 苦痛を抱える患者に寄り添い、相手の気持ちを考えた対応ができる人
- 2 医療や健康問題について積極的な関心を持つ人
- 3 相手の立場に立ち、協調性をもって行動できる人
- 4 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度が持てる人
- 5 自己研鑽への強い動機をもち、自ら進んで学習・努力することができる人
- 6 柔道整復師としての夢を持ち、その社会的役割について考えることができる人

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

「柔道整復学」は、基礎分野から専門基礎分野、そして専門分野の教育を通じて、幅広い知識と教養、豊かな人間性、高い倫理観を身につけます。特に、専門分野では、柔道整復学の理念と実践を歴史的・科学的に追求し、高度の専門知識・技術を総合的に教育します。

1年次では、基礎分野として一般教養を、専門基礎分野では人体の構造と機能として解剖学・生理学をはじめ高齢者・競技者の生理学的特徴や保健医療福祉と柔道整復の理念、そして社会保障制度を学びます。専門分野では基礎柔道整復学の理論と柔道整復実技の基礎技術と高齢者の外傷予防を学び、臨床実習の基礎を行います。特に1年次では職業倫理を学び、医療関係者・社会人としての倫理やマナーを身につけることに重点を置き、コンプライアンスを遂行し、「柔道整復師倫理綱領」が実践できる人材の育成を行います。

2年次では、専門基礎分野で解剖学・生理学に加えて運動学、疾病と傷病では一般臨床医学・病理学・外科学概論・整形外科学・リハビリテーション医学を学びます。専門分野では、臨床柔道整復学・柔道整復実技に柔道整復各論実技を加えて、臨床実習および臨地実習も開始します。

3年次では、専門基礎分野において、現代社会の世情を背景に柔道整復学が機能訓練の指導対象である高齢者、各種スポーツの競技者の身体的、機能的特徴に特化した運動生理学を学びながら、それらの人々の生活や療養の場に応じた健康増進、外傷予防、健康の回復、疼痛の緩和を支援する内容を学びます。そして、卒業単位を取得し、国家試験の受験に向けての準備をします。

また、国家試験合格と同時に就職先が決定するように、入学当初から職業意識を身につけるように指導します。

ディプロマ・ポリシー（称号授与の方針）

スポーツ柔整科・柔道整復科では、次のような知識や能力を身につけ、必要単位を修得した学生に卒業認定・称号を授与します。

- 1 柔道整復師の国家試験に合格するための知識を備えている。
- 2 柔道整復師として専門的知識・技能を習得し、主体的・自立的に行動できる人間力を備えている。
- 3 将来に向けて更なる努力を実践し、心身共に有能な臨床家として、国民の健康の保持に寄与し、社会に貢献する意欲がある。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

日本語科では、日本語と日本文化を深く理解し、日本だけではなく海外での活躍を目指す留学生や日本の文化や技術を海外に発信しようとする次のような人たちを求めます。

- 1 介護福祉科への進学を意識し、より高度な言語力・知識を身につけたいという意欲のある人
- 2 社会の一員として、協調性を持ち、ルールを守って自立した行動を目指す人
- 3 進学に向け、日本語能力試験N2を目標とし、勉学に励むことのできる人
- 4 母国語にて日常生活レベルの会話や作文ができ、且つ他者と積極的に意見交換ができる人
- 5 質問をする、記憶をするなどをして目標達成まで努力できる人
- 6 日本語能力試験N4相当の日本語力を持つ人

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

日本語科では、卒業認定のために、授業科目を「日本語初級」「日本語初中級」「日本語中級」「日本語上級」の4つに分け、段階的に編成して、日本語教育を実施します。

○1年次

日本語初級から初中級までの文型を基礎から体系的に学習し、運用力を養います。「依頼ができる」など留学生活を送る上で必要な行動目標を遂行するため、学習者が自ら考え、発信できることをねらいとしています。日本語能力試験N5・4の漢字の読み書きを基本的なものから学習し、さらに部首の意味を理解することで、新出語彙の意味も推測できるような応用力をつけます。異文化間コミュニケーション能力の育成のため、学習の場を地域に広げ、日本のマナーや文化についても学んでいきます。

1年次から進路実現の一環として、先輩留学生との交流を交えた介護福祉科の授業見学も実施します。

○2年次

「日本語初級・初中級」終了後、「日本語中級」の学習として、日本語能力試験N3で出題される語彙や文型を習得します。また、一般的な事柄や抽象的なテーマについての会話力や、多様な文章を段落を意識して読み、意見や感想などを短い作文として書く能力を養います。

さらに、2年コース（4月生）と1.8年コース（7月生）では「日本語上級」の学習として、より複雑な文型を学びます。また、各課のテーマで掲げられた問題点を学生同士若しくは教員と共有した上で、自分なりの見解を持ち、発話意図、スピーチレベル（書き言葉、話し言葉）、各場面に合わせた適切な表現を使い分け、他者と意見交換ができる能力を身に付けます。日本語能力試験対策として、文章を読む速度や聞き取り能力を高め、要点を的確にとらえる力も養うほか、模擬試験も実施します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定）

日本語科では以下の知識や能力を身に付け、必要単位を修得した学生に卒業を認定します。

- 1 日本語能力試験N3相当の知識・能力を備えている。
- 2 日本語コミュニケーションのための4技能（読む、書く、聞く、話す）の運用力を習得し、それらを実社会において目的に応じて駆使する力を備えている。
- 3 国際相互理解に努め、母国と日本の架け橋としての使命感を備えている。
- 4 日本語力を向上させ、必要とされる世界のコミュニティに積極的に貢献したいという意欲がある。